

アメリカ留学日記（6・最終回）

一年間の留学を終えて

～ 挑戦する姿勢の大切さ ～

早稲田大学政治経済学部3年・California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学中

服部 祐也

California Polytechnic State University San Luis Obispo への九ヶ月間の交換留学も、ついに終わりを迎えました。人種の違い、慣習の違い、学習面の違い、宗教環境の違いから得た経験はこれまでに書いてきたため、最後の投稿である今回は、留学を通して私が学んだこととして、挑戦する姿勢の大切さについて書きたいと思います。

この一年で私が学んだ一番大きなこと、それは「挑戦する姿勢の大切さ」です。失敗することを怖がって躊躇っていたのでは、何も得るチャンスが生まれません。生活も無味乾燥なものになってしまいます。しかし、挑戦することで、そこから何かを得る可能性が生まれてきますし、たとえその挑戦が失敗したとしても、その失敗から必ず得られるものがあります。それと同時に、日常生活も新鮮で充実したものになります。数々の勇気を持った決断から学んだことを通して、私はここでの生活でそのことを身にしみて感じてきました。

留学当初、コミュニケーションすらままならない会話能力しか持ち合わせていなかった私にとっては、何をすることも全てが挑戦でした。ただ、交換留学をすることで一年間という莫大な時間を投資しているという意識が私の中でかなり強かったため、「留學生活でこれをやった」という形に残るものを達成しよう、無我夢中で張り切っていました。国際交流を主とした学生団体 AIESEC の活動への参加がその一例です。

AIESEC の活動に初めて参加する日の直前、私は授業で発言できていないことに関して大変落ち込んでいました。そのような状況で、新しい環境に自分自身を挑戦させる気分にはなれず、行くのを辞めようかと思っていました。しかし、意を決して参加、それがこの留學生活において非常に大きな意味を持つことになりました。

団体で唯一の非アメリカ人としてのオリジナリティーを生かし、自分にしか出来ないことが必ずあるはずだ、そのような思いを当初から抱いていた私は、四月に Japanese Culture Night を

ホストとして開催、40人を超える人を集め、それまでの culture night に見ない大成功を収めました。そこでは、ちらし寿司（六合半）・お好み焼き（10枚以上）・すめ・梅酒をはじめとした日本食を用意し、日本とその歴史・文化・大学生の生活・経済史・現在の経済や政治の課題・日本語についてのプレゼンテーションを

し、篠笛（竹笛）で「さくら」と「荒城の月」を演奏しました。この会を作り上げるにあたり色々相談した人達とは近い関係になることが出来ましたし、その後の AIESEC における私の存在感も、とても大きなものになりました。40人以上の前でプレゼンテーションをしたり、その場で知り合った友達にサーフィンに連れて行ってもらうなど、culture night 自体からも得られるものがたくさ



んありました。

その他にも、AIESEC のアメリカ西海岸の大学の合同合宿で生まれて初めての Halloween を体験しましたし、タイ・インド・フィリピンそれぞれの culture night ではそれぞれの国の料理、政治問題等を知ることが出来ました。

英語がうまくしゃべれず、参加するのをやめてしまおうかというためらう気持ちも強かったものの、AIESEC に参加し続けることで自分自身を挑戦の環境に置いてきました。たとえその時は大変であっても、そういう経験が着実にその後の自分の成長、そして後々のいい思い出につながっています。ためらう気持ちに負けず、挑戦し続けた姿勢から学ぶことは非常に多く、挑戦することの大切さを、身にしみて体験してきました。